

予算・決算審査の振り返りについて

令和4年度の予算審査は令和4年3月定例会で、令和3年度の決算審査は令和4年9月定例会で、ともに「特別委員会」が設置され、「総務政策分科会」、「教育民生分科会」及び「産業建設分科会」の各分科会において、慎重かつ熱心な審査が行われた。

その審査の状況について、議会のあり方調査特別委員会「政策等検討分科会」では、3月16日、7月25日及び11月2日の3日間にわたり、予算・決算審査の振り返りを行っているので、その結果を次のとおり報告する。

1 分科会方式を評価する意見

- ・ 全議員が参加し、専門的・効果的な審査を行うことができている。
- ・ 限られた委員で構成する「特別委員会」の形よりも、常任委員会の専門性をもって審査する「分科会方式」が望ましい。

2 その他の方式での審査を望む意見

- ・ 「常任委員会」の範囲では議論不足が生じるため、全ての議員が、より広い視野をもって市政を見直す必要があり、現在の「分科会方式」を改めることを望む。
- ・ 大きく、深い議論を展開するため、「11名程度の特別委員会」の設置を望む。
- ・ 議員一人一人が市民の意見を的確に把握し、市政全体を眺めることができるよう、役選時に予算特別委員会、決算特別委員会のいずれかに所属することを決める「2グループ方式」の採用を望む。